

〈特集：検査技術の新たな展望（3）〉

序文：検査技術の新たな展望（3）「第23回年次学術集会より」

増田 詩織

New outlook for medical laboratory test technology(3)

Shiori Masuda

Summary Clinical laboratory testing is progressing in order to meet various demands. Clinical laboratory testing improves by development of analytical skills, such as accuracy control, standardization and automation. Moreover, clinical laboratory testing replies to doctor's needs by communication of information on variation factors and clinical evaluation. This section describes the information dissemination of lipid measurement data and activity of the Nutrition Support Team. Development of a urinary protein measuring method, and the unique IgE method of measuring allergen is described. Development and improvement of a clinical laboratory testing support for today's medicine.

Key words: Clinical laboratory testing, Lipid, Nutrition Support Team, Urinary protein, IgE

臨床検査は、日常診療において診断・治療選択・経過観察などに必要な生体情報を臨床の現場に報告する業務である。医師の検査オーダーに対して、より質の高い情報を報告するためには、数多くの視点にたった取り組みが求められる。分析技術の性能を高めるために、日々業務上の問題点に向き合って、新しい検査法の開発や従来法の改良、精度管理による精度保障、標準化（またはデータ共有化）などが行われてきた。また検査法の自動化により、検査の迅速処理、多検体処理、検体および分析試薬の微量化、分析法

の高感度化、疾患特異性の高い分画や成分の測定などが行われ、分析技術は飛躍的に向上し、新たな技術が積極的に利用されている。一方、臨床検査の付加価値を高めるために検査結果の報告方法（情報伝達）も重要であり、検査データの変動要因の把握、評価基準（基準範囲・カットオフ値・パニック値）の設定、診断効率・検査結果に付加する情報提供などの取り組みも大切である。

第23回生物試料分析学会年次学術集会（安原正善集会長）は、「産学管の融合、関西の科

近畿大学医学部附属病院 中央臨床検査部
589-8511 大阪府大阪狭山市大野東377-2

Department of Clinical Laboratory, Kinki University
Hospital
377-2 Onohigashi, Osakayama-city, Osaka 589-8511,
Japan

学施設に学ぶ、地元の産業施設に学ぶ」のコンセプトのもと、『新たな「知」の創造』をテーマに、平成25年2月10日～11日の2日間、大阪で開催された。このような学術集会での学術交流は、最先端技術を学ぶだけでなく、現状の問題点を解決するための情報交換の機会として大切である。また検査技術の進歩を支える企業からの情報提供も興味深いものがある。今回、企業演題として発表された各企業の取り組みを特集とさせて頂く。

山下洋平氏（積水メディカル株式会社）からは、カスタマーサポートセンターにおいて試薬ユーザーからの問い合わせ等の対応経験から、脂質の解析を中心に検査結果の付加情報の提供を紹介頂く。LDL-C直接法ではⅢ型・Ⅳ型脂質異常症等の反応性の差異、TG高値検体においての試薬メーカー間差、異常リポ蛋白を含む検体の測定結果の乖離などが散見される。ホームページや分析データを基にした学術資料を通じて、製品の特長や異常リポ蛋白の考え方などの付加情報の提供する企業の取り組みについて紹介頂く。

日暮麻美氏（株式会社シノテスト）からは、非イオン性界面活性剤の効果を導入したエリスロシンB法による新しい尿蛋白検出法を紹介頂く。自動分析装置用の測定キット化を行い、費用対効果の高い尿蛋白スクリーニング検査が行える測定法であり、健康診断等に利用されるこ

とで、CKD早期発見への貢献が期待される。

山川祥一郎氏（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社）からは、高感度かつ広範囲な測定レンジを有する液相化アレルゲンを用いた化学発光法である第3世代特異IgE抗体検査法を紹介頂く。過去に臨床的に陽性と診断され検査結果が陰性または感度以下と判定される患者群に、感度以下の抗体値をもつ患者が存在し、アレルギー患者の早期の感作をとらえられる測定法として新しい臨床応用への可能性が期待される。

新井敏史氏（ニッターボーメディカル株式会社）からは、栄養サポートチーム（NST）加算の現状と院内NST活動の取組みについて紹介頂く。診療報酬改定で院内のNST活動は、2006年に栄養管理実施加算が新設され、2010年に栄養サポートチーム加算が新設され、さらに2012年にNST加算は対象患者の拡大や二次医療圏のNST加算がプラス変更された。NST活動が医療政策上で高い評価を受け、栄養管理が医学・医療の一端を担うものとして認知されている。これらNST加算の詳細説明、NST活動における検査の利用方法について紹介頂く。

今回の企業特集は、臨床検査の付加価値を高めるための企業の取り組みを紹介し、産官学の融合により、臨床検査の新たな発展につながることを期待する。